

2024年度 港南台保育園 自己評価

今年度の3つの重点目標にどう取り組んだのか振り返ります

子ども主体の保育の追求

子どもたち自身がおもしろいと思うこと、興味があることに目を向けて、環境づくりや保育計画に生かしていくことに今年度も力を入れました。遊びの主体は子ども！大人の願いばかりが先行しないよう、遊びのワーク（写真右）を囲んで子どもの思いについて話し合うことを大切に、毎月の職員会議でクラスを越えて振り返りをしました。

保護者の方からは「子どもたちのことを考え保育を発展させている」という感想をいただき、職員自身も「子どもの姿から展開しよう」という意識を持って取り組めた」「無理強いをしない保育ができた」「子どもたちが十分好きな楽しんでいると感じられた」と自己評価しました。

また、生活の場面でも子どもの主体性を尊重する保育士の関わりについて学び合おうと、担当外のクラスに入り保育の観察をする園内研修を行い、日常の言葉かけひとつにも子どもを尊重する姿勢が表れることに気づきました。

話し合いの時間が足りないといった課題や、こうした取り組みをもっと発信するべきといった問題提起もあったことから、次年度も引き続き「子ども主体」を深めるために何ができるか考えていきたいと思っています。

あそびのワークによる保育計画



実践



職員全員で振り返り



安心・安全な保育の強化

子どもたちが安心して安全に生活できるよう、今年度は「災害時対応」と「不審者対応」についてプロジェクトを組み、マニュアルや訓練の見直しをすすめました。特に今年度は仮設園舎へ移転したこともあり、新しい環境においてどのような訓練が必要か、プロジェクトの話し合いをもとに訓練を行えたことは職員自身の安心にもつながりました。

避難手順のマニュアルも見直しによってわかりやすくなり、訓練を繰り返す中で大人も子どもも迷わず体が動くようになってきていると感じています。次年度は新園舎への移転でまた環境が変わるため、安全ための取り組みを継続していきたいと思っています。

また、感染症対策や救急対応についての園内研修も年間を通して行うことができました。特に感染症対策については新しい情報によってマニュアルが更新される頻度が高いため、定期的に研修を行うことが重要と考えています。今後も職員全員がしっかり理解して保育に向かえるよう取り組んでいきます。

《その他…》

仮設園舎への移転という大きな環境の変化があった一年でしたが、それがきっかけで職員が安心安全な保育についてより意識を高めることができました。また、環境の変化があっても今まで通りの生活ができるよう配慮し、子どもたちの姿には大きな変化がなかったことも一つの成果と捉えています。

一方で、工事が近くで行われていることから、騒音や振動等子どもたちへの影響を心配する声や、外遊びや運動不足の心配も保護者の方から寄せられました。環境の工夫、活動の工夫によってできる限り快適に過ごし、育ちに必要な経験を保障していけるよう次年度も職員一丸となって取り組んでいきます。

また、職員一人ひとりが仕事に楽しさとやりがいを感じ、保育力の向上に努めていけるよう、業務の見直しにも取り組んでいきます。

地域との具体的なつながりの実現

子どもたちが経験を広げ、いろいろな人との関わりの中で育っていけるようにとの思いから、地域との新たな交流の機会を探った一年でした。

目標にしていた公園の植栽や水やりを通じた交流は実現しませんでした。が、「地域オープンデー」という新たな行事で近隣に住むおじいちゃん、おばあちゃんや小さなお子さんと一緒に遊び、劇遊びや歌を披露して大きな拍手をもらったことは、とても楽しく自信につながる経験になった様子でした。

年長児の地域ケアプラザ訪問も再開し、利用者さんとの触れ合いに大きな喜びを感じることもできました。

建て替え工事のため地域のみなさまにも大変ご迷惑をおかけしている中、保育園としてどのような地域貢献ができるのかということも、今後課題としていきます。

